

## ◆ 捕鯨議員連盟総会開催

10月11日、参議院議員会館において、主に立憲民主党と国民民主党の議員で構成する捕鯨議員連盟の総会が開催された。会議では、令和4年捕鯨関係予算概算要求、捕鯨業の現状、捕鯨議員連盟からの事前質問に対する水産庁の説明および回答について質疑が行われた。また関係団体からの要請として、本組合から出席した高橋健二水産局長兼水産部長から「政策に基づく捕鯨母船の係船期間中の船員の雇用を確保することが重要であるが、捕鯨船団に乗り組む船員は、船に乗って鯨を捕獲するために乗船しているのであるから、捕獲枠や捕獲対象鯨種を早期に拡大して捕鯨業が周年操業できるような体制を構築していただきたい」と要請した

捕鯨議員連盟総会には、捕鯨議員連盟会長の野田佳彦衆議院議員（立憲民主党）、本組合の政治参与である城井崇衆議院議員（立憲民主党）、徳永エリ参議院議員（立憲民主党）のほか、組合推薦候補である神谷裕衆議院議員（立憲民主党）らが出席した。また、捕鯨業界の代表として、本組合から高橋水産局長兼水産部長のほか、日本捕鯨協会、日本鯨類研究所、日本小型捕鯨協会、捕鯨を守る全国自治体連絡協議会の代表者らが参加した。

### 令和4年捕鯨関係予算概算要求や捕鯨業の現状など水産庁の説明について質疑

会議では、令和4年捕鯨関係予算概算要求、捕鯨業の現状、捕鯨議員連盟からの事前質問に対する水産庁の説明および回答について質疑が行われ、城井崇議員より、鯨肉需要喚起に向けて鯨肉を取り扱わない大手小売業者への理解促進に向けた取り組み、海事産業強化法に基づく造船分野への支援を利用した捕鯨母船代替建造への支援の検討について意見が述べられた。また、神谷裕議員より、捕鯨業の維持・存続と経営改善に必要な支援策を検討するよう国に対し強い要望が出された。

### 本組合から母船式捕鯨業の周年操業体制確立を要請

続いて、関係業界各団体の代表者が要望事項を述べ、本組合から出席した高橋水産局長兼水産部長より、政策に基づく捕鯨母船の係船期間中の船員の雇用を確保することが重要であるが、捕鯨船団に乗り組む船員は、船に乗って鯨を捕獲するために乗船しているのであるから、捕獲枠や捕獲対象鯨種を早期に拡大して捕鯨業が周年操業できるような体制を構築していただきたいと要請した。